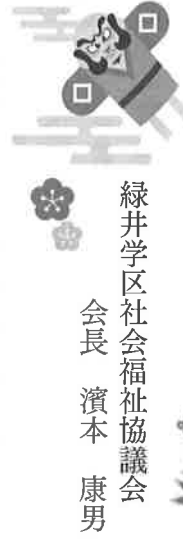


わが街みどりい

令和4年1月1日
第47号
発行
緑井学区社会福祉協議会
広報コミュニティ推進部
(090-6841-0161)

新年ご挨拶



緑井学区社会福祉協議会
会長 濱本 康男

年頭に当たり、新年のご挨拶を申し上げます。コロナ禍での日常生活も早2年となり、皆様には、それに対応した生活スタイルを探る日々が続いておられることと拝察します。この2年間、多くの地域団体では活動の中止、休止を余儀なくされている事態が続いています。緑井社協でも、町民運動会や盆踊りなど恒例の行事が開催できず、地域の皆さんが直接、交流を深められるいい機会が持てなくなっています。十二月の時点では、感染の再拡大までには至っていませんが、収束までにはなお時間を要するようで、当分は我慢の日が続きそうです。

ここ数年、市内でも町内会の加入率の低下や地域活動の後継者難を心配する声が増えています。緑井地区でも例外ではありません。インターネットの普及と進化で、コミュニケーション手段が劇的に変化し、近隣とのつながりよりも気の合う人と



緑井学区社協のスタッフ

繋がってほしいと考える人が増えていることも一因です。技術の進歩をうまく生活に取り入れて生活を豊かにすることは大切なことです。が、それによってもたらされる負の側面にも、しっかりと目を向けておく必要はないでしょうか。

緑井地区や八木・梅林地区は、かつて土砂災害に見舞われ、多くの犠牲者を出しました。いつ起こるか分からない災害などに備える危機管理の上からも、日ごろから自分たちが住む地域のことに関心を寄せ、同

受賞おめでとう
ごさいます

- *広島県社会福祉協議会会長表彰
引地 正明(中組町内会)
- *広島市社会福祉協議会会長表彰
五島 周作(大下町内会)
- *安佐南区社会福祉協議会会長表彰
岩藤 優子(岩谷自治会)

じ地域に暮らす人との絆を保っておくことは、結果として暮らしの大きな安心に繋がります。

ポストコロナの時代はまだ見通せませんが、これからの地域の姿を考えてみるうえでも、私たちを取り巻いているインターネットなどのヴァーチャル(仮想)なものとのリアル(現実)な日常の暮らしとの関わりについて、改めて考えてみることも必要ではないでしょうか。

今年も1年間、社協活動へのご理解ご協力をよろしく申し上げます。

「緑井駅前サロンをご利用ください」

社協から市へ要望書提出 ～せせらぎ公園整備など～

緑井社協は、住みよい地域づくりのために、いろいろな活動をしています。昨年8月、9月には区役所の担当部署に対して、公園の整備など以下の3項目について要望書を提出しました。いずれの要望も予算の措置が必要になりますが、早期の実現に向け前向きに対応していただけることになりました。行政に要望してもらいたい地元の声などがありましたら、お気軽にご相談ください。

開設後二十五年近くが経過し、せせらぎ公園(川内第一公園)のステージや周囲のテール、ベンチなど公園内の設備の老朽化が進んでいます。利用者も多く、美観上、安全上も問題があるため、区役所にも再整備を要望しました。現在、一部既に着工されています。

せせらぎ公園の整備



せせらぎ公園の傷んだテーブル

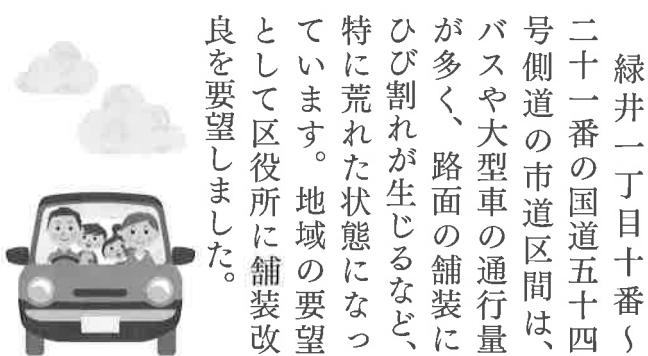


松原川緑地



中組地区から古川緑地につながる松原川緑地は、平成十七年の整備以来、地域で清掃活動などを行ってききました。樹木の成長とともに雑草が繁茂し、ごみなども溜まりやすくなっているため、区役所に樹木の伐採や水辺整備を要望しました。

松原川緑地の整備



荒れた路面の様子

市道の舗装改良

緑井一丁目十番(二十一番の国道五十四号側道の市道区間は、バスや大型車の通行量が多く、路面の舗装にひび割れが生じるなど、特に荒れた状態になっています。地域の要望として区役所に舗装改良を要望しました。

安全施設組合

県内初の防災情報シート設置
～道路・公園など26か所に～



道路標示などの交通安全施設を整備する企業の集まりである「広島安全施設業協同組合」の会員企業の皆さんが、ボランティア活動の一環として、緑井学区内の道路、公園、のり面など26か所に、県内では初めてとなる防災路面標示シートを設置しました。

シートは2種類で、一枚の大きさは縦60センチメートル、横40センチメートルのカラー刷り。土砂災害警戒区域であることを知らせるシートは15か所に、洪水時に浸水が想定される区域であることを知らせるシートは11か所に、それぞれ設置されました。特に子供たちの注意を喚起するため、児童の通学路や、遊び場となる公園の入り口などが設置場所に選ばれています。皆さんの住まいの近くにも設置されていますので、シートの情報をご確認ください。